

# 府中ホスピスを考える会通信 第9号 08/05/25



## 第7回定期総会における昨年度の活動報告について

小西 厚子

2008年(平成20年)5月25日(日)に開催する定期総会にあたって、昨年度の総会で皆様に発表した2007年6月24日(日)に開催した聖路加国際病院名誉理事長・日野原重明先生の講演会「いのち輝かせて生きる—こどもから老人まで—」に関するご報告をいたします。

この講演会は、府中市、社会福祉法人府中社会福祉協議会、社団法人シルバー人材センター、アサヒタウンズより後援をいただき、また府中社会福祉協議会から平成19年度福祉活動推進支援事業助成金をいただくことができました。講演会場の府中の森芸術劇場どりーむホールは、2000名を収容できる会場でしたから、役員一同は3月3日(土)の府中NPO・ボランティアまつりや3月31日(土)のさくらまつりの参加者にちらしを配布したり先行予約を受付け、4月1日(日)の定期総会後は会員の皆様にも招待券(入場券)を配布し、友人や知人をお誘いいただくようご協力をお願いしました。府中市市民活動支援課を通して、ちらしとポスターを各文化センターや生涯学習センターなどに置いていただきました。広報「ふちゅう」5月11日号に講演会のお知らせが掲載されて、一般市民の皆様から電話・fax、往復はがきによる申込みが多くなりました。そして、後援をいただいた「アサヒタウンズ」多摩版の5月31日号に日野原先生への取材記事と講演会の開催情報が掲載されて、近隣の市・都内・県からも申込みの往復はがきが殺到してきました。抽選の結果、多くの希望者におことわりをしなければなりませんでした。

「考える会」にとっては、初めて主催する大きな講演会でしたから、当日のスタッフには、府中はなみずきの会(日野原先生が創設した独立型ホスピス「ピースハウス病院」を支援している会)や会員になられている市議会議員とそのお仲間、また役員ご家族にも会場整理や受付などをお手伝いいただきました。当日、午前11時頃から雨が降りだし心配しましたが、入場者総数1940名、府中少年少女合唱団員67名、スタッフ60名が参加しました。どりーむホールを埋めつくした聴衆は、95歳の日野原先生が舞台を左右に動きながらしばしば会場を笑いにつつんで話された講演内容に元気と感動を与えられたことと思います。講師の日野原先生のおかげですが、「考える会」主催の講演会は大成功でした。参加者に答えていただいたアンケートによると、回答者747名中645名がとても良かった、74名が良かったと答えています。自分の住む地域にホスピスがあった方がよいという答えは、722名。また、当日54名の方が、新入会員になってくださいました。また入場無料で計画した後援会でしたので、会場の皆様に多額の寄付を頂きました。これはまた、こうした講演会を計画して、皆様にお返しして行こうと考えています。ご臨席いただいた天津貞夫府中社会福祉協議会会長にもご挨拶をいただきました。また、考える会顧問十蔵寺新東府中病院院長にもご臨席頂きました。皆様のご協力に感謝申し上げます。また、平野眞澄ライフプランニングセンター所長に講演会の司会をしていただきましたことを感謝申し上げます。

年が明けた平成20年1月20日(日)に、第20回勉強会・講演会「地域におけるホスピスケア—患者と家族の心を支える—」を医療法人社団イバラキ会・イバラキ診療所ソーシャルワーカー高野和也氏にお話していただきました。

本日の定期総会に先立つ第21回勉強会・講演会は、府中医王看護ステーション・地域専門看護師、宮田乃有氏に「ホスピスケアにおける訪問看護の役割」についてお話していただきます。府中市の在宅ホスピスケアの現状についての情報を得られるよい機会であるとお話を楽しみにしています。

# 声

## 日野原重明先生の講演、大きな感動を<sup>もたら</sup>齎して終わる

講演に先立って、日野原先生のご希望で、府中少年少女合唱団の合唱が披露され、最後の曲目「しゃぼん玉」の指揮を日野原先生がとられました。そして、合唱団が退場した舞台に先生はそのまま残られて、お話を始められ、最後まで演壇の前には立たずに左右に動きながら会場の聴衆に向かわれ、しばしばユーモアを交えて会場が笑いにつつまれました。

最初に、「アサヒタウンズ」の記事をお示しになられて、府中ホスピスを考える会の設立について紹介をされ、先生が「考える会」を支援していること、府中にホスピスのための土地があればホスピス実現に尽力したいと、私たちにとって心強いお言葉をいただきました。

講演の演題、いのちを輝かせて生きているモデルは、日野原先生ご自身であると印象づけられましたが、先生の設立された75歳以上の方を正会員とする「新老人の会」には、さまざまな新しいことを創(はじ)めているモデルがいる。輝いて生きている人が、どのようなものを食べているか、何をしているか等等、モデルに学ぶことで、今までと違う生き方ができる。ちなみに先生は、1日1300カロリー、昼食は牛乳とクッキー1枚とか、食べ過ぎないことが寿命を永くするとのこと。

先生は、小学校で「いのちの授業」をなさっており、10歳の子どもたちに、「いのちはあなたの持っている時間です」、「持っている時間をどう使うかが大切です。人のために使いなさい」と教えている。

いのちについて教えられていない大人や老人にも、話している。「生をどう生きるかということと、死を迎える覚悟は、表裏の関係にある」、またプラトンの言葉「どう良く生きるか、どう良く病むか、どう良く老いるか、どう良く死ぬかが、人間の宿題である」、「自分のいのちは自分でデザインできる。新しいこと、創作をすることを仲間をつくってやっつけよう」といった感銘する言葉やメッセージをあげられました。

そして、現在の先生は、平和運動に余生をかけていきたい、とお話を結ばれました。

日野原先生、素晴らしいお話を有難うございました。

小雨降る中2000人を超す人々が集まり、約2時間先生のお話に関き入って2000人の人が大きな感動と勇気と教訓と希望を貰って帰られたようです。アンケートから抜粋してここに紹介します。

- ◆先生は座って講演をなさるとばかり思っていました、一度も座ることなく、始めから終わりまで動き回って、時にはみんなを笑わせ中身の重い命のお話、老人の生き方、等をお話なされた。そして人には生き方のモデルが必要なこと等々、心温まるお話に深く深く感動いたしました。
- ◆私にとって日野原先生が最高のモデルです。
- ◆私は81歳。先生の若さと行動力に感動しました。老人の生き方を勉強させて頂きました。
- ◆私は71歳。先生の生き方に共感しました。世のため人のため、自分のために頑張ります。日野原先生バンザイ!
- ◆涙一杯。笑顔一杯。自分の死の時を考え、幸せなひとときでした。
- ◆先生のエネルギーをもらいました。
- ◆府中にも是非ホスピスを、と願います。私は看護師ですが、ボランティアとして参加したい。
- ◆夫が2ヶ月前にガンで亡くなりました。府中にホスピスがあったらどんなによかったか、今しみじみと思っています。
- ◆4年前にホスピスで母を看取りました。この活動に私も参加したい。
- ◆自分は医者を目指している者です。今日の話をお忘れずに日々精進し、一日の時間を大切にしたいと思います。
- ◆先生のお話、心にしみた。祖母95、母67、私34、赤ちゃん9ヶ月の4代でお話を聞け、最高にハッピーです。
- ◆東京小金井で内科クリニックを開院します。これからは、自分以外の人のために時間を使おうと、改めて思いました。

## 第5回多摩在宅ケアネットワーク主催「訪問看護研修会」参加記

駒ヶ嶺 泰秀

この研修会は、今年の2月21日(木)、立川駅南口に近いアレアレビルの五階ホールで開催されました。私の全く未知の世界の一部分を興味深く聞き学んできました。私みたいな全くの門外漢の人間が参加してもいいのだろうか、おそろおそろ出席したのですが、おわってみるとそれだけの得るものがありました。

この会は医療法人社団在和会、立川在宅ケアクリニック(旧井尾クリニック)院長井尾和雄先生が中心になって開催されている研修会です。

今回は「困ったケース特集」の5回目で、報告に立った看護師は3名でした。最初の報告者は、「国際訪問看護ステーションの方で訪問看護の体験報告でした。「緩和ケアと安楽死を取り違えて理解しているケースの終末期ケア」がテーマで患者の家庭環境・病歴(発病・入院・手術・退院・再入院・退院・緩和ケア)、本人の意識と家族との意識のずれが大きな問題になって困った、という報告だった。次に立った発表は「株式会社ウチヤマ訪問入浴サービス」の方。「訪問入浴サービスを行っていて困ったこと」だった。私は、こういう仕事をしている職業の人々がいて終末期の患者たちが助けられているということさえ知らなかったので驚きだった。それにこの会社は府中にあり、日々活動しているということにも新しい世界が開けた思いがした。



日々日々、これ進化(変化)

小澤幸治

最近のガン医療の進化(変化)は目まぐるしい。たとえ発病しても、お医者さんから適切な指導を受けている人は、ほとんどつらい痛みからは逃れられる。昨今では、ガンと共生して健康人以上に働いている方も多い。

「発病の部位」と「ガンの性格」によっては「白寿万歳」も夢ではなくなりました。しかし、ガンは「病理解剖学」からみると、人それぞれ「ガンの顔」が異なるようであります。人間界にも異端児がいるようにガン界にも「やくざ分子」沢山いるようですね。・・・そして、この「やくざガン細胞」にとりつかれたら発見の遅れは致命傷のようであります。やくざ除けのおまじない、ないかな?・・・

《閑話休題》患者「先生、私の病気は治りますか?」・・・先生「私が、治してあげますよ、少し高いですが、良く効く薬がありますよ」・・・これは危ない・危ない。

先生「病気はあなたが自分の力で治すものですよ、私はそのお手伝いを・・・」このほうがあなたの先生。昔「わいわい」われまわす『患者は医者を選ぶことができる。医者は患者を選べない』・・・人生成功の三大秘訣。交わるならば、賢者・医者・長者。愚かな人生は、その反対の人との交わり。愚者になりたければ、特に医者嫌いがよろしい。

医者だって普段、嫌われていていざの時だけ「助けてくれ」は?・・・いい気持ちするわけではない【実際にはありますよ】

「かかりつけ医」制度が今、導入されようとしています。昔から「家庭医」はあったはず。家庭がどっかへいっちゃたから「かかりつけ医」になったのかな?

どうも、「後期高齢者医療制度」は評判が悪い。あわてて「長寿医療・・・」と名前を変えてもどうなることか?・・・

小泉政権の時、自民・公明で(イケイケどどん)で決めてしまった法律である。一部では、施行の時<<問題になるぞ>>と囁かれていた法律である。なんせ「高級官僚の頭」と「当選しやすい議員」の霞ヶ関。

何度だまされても「選良」を考えない選挙民だからこんなもんだよ・・・と。このままだと二分の一が、二世三世四世国会に、【陰の声】やっぱり天皇家が永世だから?まねするんだね・・・

まとめ。「府中ホスピスを考える会」は七年目を迎える。なにやっているんだ・・・の声がきこえる。しかし、本番はこれからである。日野原先生がいうように、会員が動き出さないと何も変わらない。今、何を考えることが必要か、いま一度、この“なにを”それぞれ考えてみませんか。みんなで、どのような「死に様」がしたいか・・・を論じてみようではありませんか。府中でできること、あるはずです。

## 府中ホスピスを考える会講座実施歴

	日付	テーマ	講師	
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
1	02/02/17	「ホスピスの体験から」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
2	02/04/28	「在宅ホスピスケアについて」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3	02/07/14	「緩和ケアで使われる薬について」	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
特	02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会「日野原先生」		
4	02/11/24	「心と身体の痛みを癒すには」	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長	平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎
7	03/08/03	「ヨーロッパのホスピス事情」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるために-在宅ホスピスケアの実例-	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
9	04/04/18	「家族の立場からホスピスケアを見る」	府中ホスピスを考える会会員	駒ヶ嶺 泰秀
10	04/09/10	輝いて生きる-人生の後半を-	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
11	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所研究員	長谷 方人
12	05/06/05	夫をガンで見送って-入院治療3ヶ月後の不安-	府中ホスピスを考える会会員	森山 レイ子
特	05/09/24	地域で生きる-尊厳ある生と死を求めて	聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎 他
特	05/10/30	いのちと響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
13	05/11/26	更年期障害と子宮癌	東府中病院長	十蔵寺 新
14	06/03/26	人間のいのちと死-終末期医療からみる	医学博士・医療法人恵風会施設長	渡邊 寛宣
15	06/05/21	千倉市『花の谷』(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
16	06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関する Q&A	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
特	06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
17	06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
18	07/04/01	さいごまで生きる施設-ホスピス-でのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
19	07/06/24	「いのち輝かせて生きる」-こどもから老人まで	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
特	07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
20	08/01/20	「地域におけるホスピスケア」-患者と家族の心を支える-	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
21	08/05/25	「ホスピスケアにおける訪問看護の役割」	医王訪問看護ステーション地域専門看護師	宮田 乃有

会計より会員の皆様へのお願い 会費の払い込みをどうぞよろしくお願いします。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。

会計 宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記 大國魂神社の例大祭・くらやみ祭りも終わり、府中のけやき並木も濃い緑に輝く季節になっています。昨年は、会報を第8号しかお届けできませんでした。そこで、昨年度の「考える会」の一大イベントであった聖路加国際病院名誉理事長日野原重明先生の講演会の記事を中心にして、第9号を編集しました。どりーむホール満員の聴衆に感動と元気をいただいた日野原先生の講演会をもう一度思い出していただければ幸いです。

「通信」編集委員 荒川京子、小西厚子、駒ヶ嶺泰秀、和田総一郎

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-361-2823